教育研究の進展を期待する
——紀要第2号の発行にあたって——

教育研究所長　仙　﨑　　武

Expectations of Development of Educational Studies
——The Second Volume——

Takeshi Senzaki
Director, Bunkyo University Institute of Educational Research

わが国の高等教育は、これまで著しい普及を遂げてきたが、わが国の近年における社会経済、科学技術の構造的変化や国際的役割の拡大に伴い、高等教育機関の中心を占める大学・大学教育に対する社会や国民の期待・要請は極めて大きく、かつ多様なものとなってきている。このため、今後の大学は、国家・社会の進展を担える人材の育成と学術研究の充実を積極的に推進するとともに、組織運営の活性化はむろんのこと、教育研究の高度化、個性化、多様化を図る必要がある、とされている。

本教育研究所は、こうしたすう勢に対応して、大学における教育・研究の向上・発展に資するため、「教育に関する学術的研究・調査を行い、国際交流を深め、併せて大学内外の教職員の研究、研修の場として活用すること」（教育研究所規程第1条）を目的とし、去る平成2年12月に創設された。爾来、この目的達成のため、研究所は組織・機構（スペース、スタッフ、予算等）の拡充、整備を図る一方、研究部では、本学卒業生を対象とする現職教員へのアンケート調査の実施、研修部では、近隣現職教員を対象とする夏期「国語科」「生活科」「特別活動」等の研修会を開催した。そのいずれでも所期の成果が大いにあがり、これらのすべてを紀要創刊号（1992年9月発行）に収めることができた。また、研究所規程に従って、国内教育研究団体（全国教育研究所連盟等）との交流の促進、海外教科書の計画的収集等、幅広い活動も積極的に進めてきたところである。

本年度は、こうした活動や実績の一層の深化・発展を図るため、過年度の諸活動に加え新たに通信による教育相談活動などを推進することになっているが、それらの重要な活動の一環として、今般、紀要第2号を発行する運びになった。

本紀要には、本学教員各位による特別寄稿、投稿論文、研究ノート、卒業生による実践報告等が収められており、そのいずれも平素の教育研究の粋を凝縮した珠玉の論考となっている。紀要の体裁や分量は予算等の制約もあって必ずしも十分とはいえないが、どうぞ、諸賢には、本学における学術的な研究調査活動の実情をご理解頂くと共に、今後の教育研究の在り方につき、忌憚のないご意見・ご叱正を賜わりますよう切にお願いして、紀要発行のご挨拶に加える次第である。